2022 年度 社会福祉法人 高崎福祉倶楽部 事業報告

１．基本方針

社会福祉法人として「社会、地域における福祉の充実・発展」に寄与することを使命とし、基本理念を念頭に置き、職員一丸と新型コロナウイルスの感染防止に努めました。オミクロン株流行による第８波の感染力は強く、感染者がでましたがクラスターになることなく終結できました。

２．重点項目①～⑥（2021 年改定に引き続き対応）

① 感染症及び災害対策（介護基盤の構築）

・ 新型コロナウイルス感染者

職員 （デイ２名 ・ 特養５名）

利用者 （ケアハウス１名 ・ 特養１名）いずれも施設外での対応となる。

② 生産性の向上

・ 会議や多職種連携における ICT の活用はまだまだこれからである。

・ 多様な人材の活用を進め、外国人技能実習生１名留学生のアルバイト２名の実績。

③ ＬＩＦＥ（ＣＨＡＳＥ＆ＶＩＳＩＴ）の活用については、６月に全表フィードバックされる予定との情報あり、引続き科学的介護（加算対象）の推進に取り組む。

④ 人権擁護、高齢者虐待の防止、身体拘束等の適正化、安全対策体制の構築（安全対策担当者の必置）

⑤ 働き方改革への対応と職場環境整備（両立支援への配慮、ハラスメント防止、女性の活躍を推進）

・ 有給休暇の年間 10 日以上の場合５日取得を推進。

⑥ 規程類の見直しを実施。

⑦ 地域交流事業

・ 地域活動（介護予防体操）は自粛しましたが、ホームページによる広報活動として職員ブログは継続中。

３．予算（借入金償還を含む）・事業別報告による ※別紙参照

４．会議実績

① サービス責任者定例会議 月１回 各事業所の責任者

② 安全衛生委員会・危機管理委員会（①と同日） 月１回 各事業所の責任者

③ 給食会議 月１回 各事業所の責任者

５．研修実績

① 職員研修（オンライン、zoom 等含む） 月１回

② 看取り・喀痰吸引の研修 年１回

③ 感染予防、事故、身体拘束防止に関する研修 年４回

④ BCP（業務継続に向けたシュミレーション訓練の実施）は来期に持ち越し

⑤ 外部研修への参加 （オンラインによる研修に参加、身体拘束防止、リスク管理等）

６．修繕・購入実績

① 厨房機器等の故障に対応するのみ、購入計画はすべて見送りとした。

７．職員採用実績

① ハローワークによる正規職員１名、非常勤介護福祉士（非常勤職員）３名の採用

② 外国人技能実習生の受入れ、アルバイト留学生から採用

2022 年度　特別養護老人ホーム悠ゆう　事業報告

　新型コロナ感染症の影響から引き続き感染予防策を優先したことで様々な制限を受けての生活となってしまいました。初期対応に重点を置き、基本的な対策を徹底したことでクラスターになることなく過ごせました。

目標とした、①稼働率 98%、②リーダーシップを発揮できる人材育成、ともに達成できず、次期繰越課題となります。

◇実施計画として次のように掲げましたが、3 の感染対策に終始した 1 年でした。

1．多職種の連携によるチームケアの構築
2．コミュニケーション能力を高めリーダーシップを発揮できる人材の育成
3．感染対策

機能訓練

生活リハビリの充実を目標に次の通り実施したが、1，2 ともに十分とはいえない結果となった。

1．残存機能維持を目的としたレクリエーションの実施
2．入居者の生活歴を踏まえて住環境の整備と日常生活の充実を図る
3．口腔機能向上のための口腔体操を実施（誤嚥性肺炎予防・感染予防）

給食

食べる楽しみと経口摂取の維持を目標に次の通り実施した。

1．食欲を刺激する献立、食事形態の工夫により経口摂取の維持に努める。
　・　季節感や生活感のある食事の提供
2．栄養ケア計画に基づく経口摂取機能の適切な評価
　・　嚥下調整食の提供

健康管理

健康維持と感染予防を目標に次の通り実施した。

1．健康管理と観察のポイント、疾病と服薬の周知
2．看取り、褥瘡予防、感染予防等の施設内研修の実施
3．事故の予防と事故発生時の対応の周知
4．職員の健康管理（腰痛予防対策を含め、健康診断の実施）

令和４年度　デイサービスセンター青葉　事業報告

「住み慣れた地域で暮らす」を目標に在宅生活が維持できるように通所介護、介護予防・総合事業を提供します。

＜ 目標 ＞

ご利用者の心身状況や本人の意向を尊重しながら日常生活が送れるように支援します。

若年化傾向にあるため、個別に認知機能の向上を目的とした運動・脳トレに力を入れる。

＜ 実施計画 ＞

１．軽費老人ホーム、短期入所事業、居宅事業者やあんしんセンターと連携し新規利用者を獲得する。1 日の平均利用人数 18 名を目指す。

２．利用者のニーズに応え、短時間利用等柔軟に対応する。

３．地域における認知度アップを目指し積極的な情報発信をする。

４．地域活動「歌って笑って健康体操」の継続により地域住民との交流をはかる。

（今後に向けての開催方法を検討して行く）

＜ 実施報告 ＞

１・２．居宅介護支援事業所と連携し新規４名獲得。利用者ニーズに応じ、短時間利用にも対応したが入院や施設利用もあり 1 日の平均人数 13.5 名。延べ人数は前年比約 10%減で目標を大幅に下回ってしまった。

３．青葉便りを作成しご家族、大類中学校を訪問した。又ホームページにも乗せ情報発信の継続を行った。

４．健康体操はコロナ感染防止の為自粛。

2022 年度　ケアプランセンター悠ゆう　事業報告

住み慣れた地域で自立した在宅生活を継続できるよう、一人一人の心身の状況、および生活環境に応じ、利用者の選択に基づき、適切な保健医療サービス及び福祉サービスを総合的かつ効果的に提供できるよう努めます。

＜目標＞

１．新規利用者数の確保(稼働率の維持)

２．他の専門職種との連携・協働の強化

３．感染症対策の強化

＜実施計画＞

１.近隣の病院(医療連携室等)、地域包括支援センターや社会資源を活用しネットワークの構築、新規利用者の確保(稼働率の維持)ができるように活動を継続する。

２.地域の一員として、地域住民や周辺自治体の情報収集に努め、他専門職との連携を図り、事業所の存在をアピールする。

３.常に最新の情報を取得し、施設内外での情報の共有化を図る。

＜実施報告＞

１．市内外の地域包括支援センター他事業所のネットワーク構築により新規利用者 16 名の獲得となりました。

２．新型コロナウィルス感染症の影響で、地域のイベントや活動への参加の機会は得られませんでしたが、担当利用者様からの紹介により当事業所の存在を知ってもらうことができました。

３．施設内外で開催されたオンライン研修に参加する事で、最新の情報収集ができ、他事業所との共有化を図ることができました。

４．特定事業所集中減算に関しては、80%を上回る事なく各事業所との連携を確保することができました。

2022 年度　ケアハウス「グリーングラス」事業報告

＜　目標　＞コロナ禍あってもより多くの入居者の方が参加できる行事を工夫し、意欲を・体力低下防止を図る。

＜　実施計画　＞

1. 介護予防の体操、レクリエーションの実施時間、内容を工夫しより多くの方が参加できるよう努める。
2. 趣味で創作活動をされている方（編み物、短歌、書道等）の希望があれば、作品の展示会等を企画し更なる創作意欲、日々の生きがいを持てるよう支援する。
3. 健康チェック（血圧、脈拍、体重測定）の 1 回以上の実施と年 1 回以上の健康診断を促す。
4. 施設内で安心して利用者交流が出来るようなスペースを確保し、機会を提供する。
5. 事業所内居宅との連携の他、高崎を中心とした居宅事業所などに定期の案内を行い問い合わせの数を増やし、待機者獲得につなげる。
6. 近隣にお住いの方々に当事業所の案内ができる企画を提案、実践する。

＜　事業報告　＞

1. 体操、レクリエーションの時間を定期で作り、皆さんで楽しんで頂けている。
2. 書道、絵手紙など各専用の時間を設け、自分に合った趣味を楽しんで頂けている。
3. 健康チェックは計画通り実施。声掛け、傾聴を行い心配事解消に繋がるよう努めた。
4. 簡易売店の継続。人数、場所を限定し安全を確保した上で、徐々にゆうゆうカフェを再開し希望者には楽しんでいただいた。
5. 事業所内の居宅とは連系をスムーズに図れたが、他事業所などに定期の案内はできず多くの待機者確保には至らなかった。
6. 近隣にお住いの方々に当事業所を案内できる企画の実践はできなかった。

２０２２年度　悠ゆうみなみちょう事業報告

利用状況

年間平均利用率は、特養６３％、空床利用型短期入所１．８％でした。今年度の目標とした６ユニット稼働は達成が難しい状況です。

現在の入所状況ですが、医療機関、居宅介護支援事業所からの入所・短期入所相談が増えていますが、入所に関しては、費用負担ができないとの理由で入所申込に至らないケースが非常に多い状況であり、待機者もなく、入所率をあげられておりません。短期入所は、長期入所へ繋がる可能性に期待し、接触的な受け入れを継続しています。これまで３名の短期入所利用者が入所されています。3月１日に４人目が入所される予定です。今後も新規入所・短期入所希望者獲得に医療機関・居宅介護支援事業所等関係機関への訪問を継続し、入所率アップに努めて参ります。

介護人員体制について、中国人技能実習生１名と職員紹介の介護福祉士１名の入職予定が中止となり。4月に常勤職員となった中国人留学生２名、夜勤専従職員１名の退職があり、人員体制、特に夜勤体制を整備することができておりません。

今年度の目標である６ユニット稼働達成に向け、新規入所者の獲得と介護職員人員体制を整備して参ります。

特養・短期入所

＜目標＞　チームケアを実践　～チーム協働でご利用者が安心・安全に楽しく生活できるように支援する～

＜目標達成状況＞

1　アセスメントにより個別ニーズの把握に努め、対応（ケア）の徹底に努める。利用者・家族からの生活相談、要望・苦情について迅速に意識して対応した。状態変化や変化するニーズへの対応が課題。

2　事故・インシデント報告が多い状況。中でも内出血や剥離の報告多く、予測的介護の実践が必要。

3　リーダー不在時に情報共有が不十分。又、担当者会議で決定したケアが実施されないことがある

4　職員研修（法定研修含む）に全員参加できない状況あり、職員間での伝達研修を取り入れる。

5　慰問及びボランティアの受け入れをコロナウイルス感染症が治まるまで中止としている。

＜次年度への課題＞

1　変化するニーズをケアプランに位置づけ、対応（ケア）ができる体制を構築する。

2　担当者会議で決定され位置づけられた対応（ケア）は必ず実施する。

3　情報共有を徹底し、チームケアを実践する。

4　伝達研修を継続し、職員のスキルアップを図る。

5　慰問及びボランティアの受け入れにあたっては、状況により適正な対策を講じて受け入れを開始する。

部門別目標

機能訓練

＜目標＞　生活リハビリの充実

＜年度目標期達成状況＞

生活リハビリをケアプランに位置づけ実施することになっているが、徹底されていない。余暇活動も実施できないことが多い。コロナ禍で慰問、ボランティアの受け入れができない。

＜次年度への課題＞

生活リハビリをケアプランに位置づけ実施を徹底する。日課にレクや作業療法などの活動を取り入れるための業務体制を再検証する。デザートビュッフェやおやつレク等を継続実施する。

給　　食

＜目標＞　食べる楽しさへの工夫と経口摂取の維持

＜年度目標期達成状況＞

入居者の状態変化に伴う食事形態の対応は、医務、ユニットとの連携により迅速に実施できている。

＜次年度への課題＞

嚥下食の研究を継続する。

医　　務

＜目標＞　健康維持と感染症予防

＜年度目標期達成状況＞

概ね計画通りに実施できたが、感染対策や看取りなどの研修会の開催が不十分だった。

＜次年度への課題＞

感染症対策や看取り、身体拘束廃止、服薬等、看護・介護技術向上のため研修会を開催する。

２０２２度　利用者情況（２０２２年４月１日～２０２３年２月２８日）

特養　　（２０２３年２月２８日現在）　　平均稼働率：６３％　平均介護度：４．１

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護1（人）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護2（人）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護3（人）	10	9	9	10	10	10	10	9	9	9	9	0	104
要介護4（人）	16	17	18	18	18	18	18	19	18	18	16	0	194
要介護5（人）	16	17	18	18	19	18	17	17	17	17	17	0	191
総　数	42	43	45	46	47	46	45	45	44	44	42	0	489
月別稼働率（%）	60	60	64	65	66	66	62	64	63	59	61	0	63
月別平均介護度	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1

空床利用型短期（２０２３年２月２８日現在）　平均稼働率：１．８％　平均介護度：２．５

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護1（人）	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	3
要介護2（人）	1	2	0	1	1	2	2	1	1	2	1	0	14
要介護3（人）	1	1	3	2	1	1	1	2	2	2	2	0	18
要介護4（人）	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3
要介護5（人）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総　数	2	4	4	4	2	3	3	4	4	4	4	0	38
月別稼働率（%）	0.8	1.9	2.9	3.0	1.7	1.0	0.6	2.4	1.3	1.3	2.4	0	1.8
月別平均介護度	2.5	2.7	3.2	3.0	2.5	2.3	2.3	2.2	2.2	2.5	2.2	0	2.5